

第21回 高砂市上下水道事業審議会 議事要旨

開催日時	令和7年2月3日（月） 10時00分～12時00分
開催場所	高砂市役所 南庁舎5階大会議室
出席者 (50音順)	渡部副会長、西牟田委員、松本委員、山本委員、馬場委員
欠席者	山口会長、糸谷委員
議 事	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 上下水道事業管理者あいさつ3 協議事項<ol style="list-style-type: none">(1) 下水道事業経営戦略改定について(2) 工業用水道事業経営戦略改定について(3) その他4 閉会
資 料	<p>(次第書) 第21回高砂市上下水道事業審議会 会議次第</p> <p>(資料1) 第21回上下水道事業審議会 資料1</p> <p>(資料2) 第21回上下水道事業審議会 資料2</p>

議事の経過	
発言者	発言の要旨
事務局	<p>1 開会</p> <p><本日の資料の確認></p> <p><本日の進行について説明></p> <p><議事経過及び写真撮影の許可、市のホームページへの掲載了承願い> → 承認</p> <p><事務局紹介><出席者紹介> <傍聴希望者の確認> → なし</p>
管理者	<p>2 上下水道事業管理者あいさつ</p>
議長	<p>3 協議事項</p> <p>それでは審議会を始めてまいりたいと思います。</p>
議長	<p>(1) 下水道事業経営戦略の改定について</p> <p>協議事項(1)について事務局から説明をお願いいたします。</p>
上下水道部	<p><(1) 下水道事業経営戦略改定についてについて説明></p>
議長	<p>事務局から説明がありました内容について、何かご意見、ご質問はありますか。</p>
委員	<p>下水道の22ページ、有収水量が示されておりますが、これは上水道の水量なのですか、それとも下水道の排水量で料金を得るのでしょうか。</p> <p>どちらになるのかちょっと教えていただきたい。</p>
上下水道部	<p>こちらに示しております有収水量ですが、実際に下水道使用料で収入を得た水量となります。その算定方法は次善の策として、水道の使用量を下水道使用量としております。理由としまして、下水道の排水量を測定するための専用のメーターを設置すると維持管理費が増加しますので、結果的にその費用は使用者の負担となるためございます。</p>
議長	<p>令和2年に策定した部分とのギャップが出てきている。これから20年先は、短期的に見ていかないとギャップが大きくなるということですね。</p> <p>他にございませんでしょうか。</p>
委員	<p>下水道26ページで、合理化効率化のため、広域化を考えてるっていうお話が出てきますが、これはレベル的には高砂市の下水道事業の中での合理化効率化なのか、それとも近隣の市町村も巻き込んだ、もうちょっと広い範囲で行うものなのか、今の段階でどのようなことを考えておりますか。</p>

上下水道部	<p>下水道 4 ページで、基本的には高砂処理区の一部の分流地域から管の整備を行い、兵庫県加古川下流浄化センターの方に繋がる下水道管への接続を考えています。高砂市単体ではなく、県との統合を目指して今進めているところでございます。</p>
議 長	<p>他にございませんでしょうか。</p>
委 員	<p>基本的なことですが、耐震化、下水の場合どのようなことするんですか。</p>
上下水道部	<p>耐震化につきまして、水道の場合と同様に、管路と管路の継手が可動する器具を使用することによって、地震の動きをとらえて破損しないようにするということを行います。下水道も同じように、マンホールと管の継ぎ手に可動継手を使用して対応します。管路とマンホールの接続点が動くことによって、ある程度守ることができます。液状化対策については埋戻土の材質を変更する様な対策を行います。</p>
委 員	<p>継ぎ手とかそういうことですね。 下水道 11 ページですけども、令和 13 年度以降は赤字ですね。なぜなんでしょうか。</p>
上下水道部	<p>これにつきましては将来的に人口推計が減少し、50 年後には人口が、国立社会保障人口問題研究所の推計値を使用すると、4 万 5 千人となっております。現在のほぼ半分ぐらいになっておりまして、それに伴って収入が半分近く下がってきます。この表においては、料金改定を行っていないケースとなりますので、このような赤字が大きく数字的に出てきております。</p> <p>実際には、広域化などを行うことで、支出を抑えていきますので、また経営戦略を見直すことで、この赤字が発生しない様に考えております。</p>
委 員	<p>令和 13 年度のところで赤字になっている。そのところは人口どれくらいなるんでしょうか。</p>
上下水道部	<p>現行の経営戦略は令和 3 年から令和 12 年までの戦略でございます。 令和 2 年度は社人研で 8 万 3,565 人となっており、令和 12 年度で 7 万 9,120 人となっております。</p> <p>費用としては増え続けていく中で、人口は減少していきます。また節水型機器の普及の中、有収水量、下水道使用料も水量はかなり減ってきています。</p> <p>令和 12 年までの現行の経営戦略ではこの推移で見込んでおりますが、次の段階では、純利益を得るのが厳しくなっていきます。これを再度、経営戦略を見直す中で、いろいろと調整を行いますが、使用料の改定が必要かどうかの検討も必要</p>

	<p>です。</p> <p>ただし、単年度で赤字になっておりますが内部留保資金がありますのすぐに値上げする必要はないと考えます。</p> <p>収支で赤字になっても、早急に使用料の改定を行う必要はないと考えますが、次の10年でこの内部留保資金が枯渇するようなことがあればそこで使用料の改定のタイミングを考える必要があると考えます。</p>
委 員	人口が8万人を割り、7万5千人ぐらいなったら厳しいということですね。
議 長	他ありますでしょうか。
委 員	<p>これから子育てをして水を使う世代に対して、住みやすい高砂市にするためにも、一定の配慮を行うことと、それから働く世代に対して、この人口推計では人口の中身が見えてないので、労働人口がどのぐらいか、子育て世帯がどれくらいなのか、30年後にどういった人口の形成になってるかを見せる必要がある。また高齢者の人たちも、氷河期の世代の人たちが、年金世代になった時にそのお金を払っていけるのかっていうのが出てくると思います。そうなりますとお金がもらいたくてもお金もらえない、そういったことを考えると、その先の20年どうなるかわからないので、先にお金をもらっておいて、ストックしておいた方が安心ではないか。</p> <p>私たちの世代が、次の世代へ負の遺産を残していかないようにもうちょっと早め早めに対応していただきたい。また経営方針の中で、部内研修がありますが、連携っていう意味で、市民と役所の中での横の繋がりの連携していただいて、市民は、自分のこととして、どういった地域を目指すのかっていうのを考えることが大事だと思います。もう役所だけでなくて、市民も一緒に考えていかないといけない時代だということ、やっぱりそういったことを自治会と連携していただくっていうことが必要である。市民も私ごととして、地域で考えていくことを投げかけることが必要かなと思いました。</p> <p>それから、ちょっとお金の問題ですが、高砂市の料金はやっぱりすごく安く、良心的に住みやすい町って思うんですけど。ただし老朽化が進んでる中ではその話も変わってくる。</p> <p>ちょっとその辺どう考えておられるのか教えていただきたい。</p>
上下水道部	<p>子育て世代、働き世代に対しての配慮という面につきましては、施設の更新を先送りしていくと、やはりそういう後の世代の方に非常に負担がかかっていくことになります。老朽化の度合いとしては、今そこまで進んでない状況です。特に重要な施設の継続的に更新を図っていく。そこで将来世代への軽減を図る方針を考えています。</p> <p>あと2点目につきまして、研修ですが、部内の中で上下水道部では、技術的に特殊な部分もございますので、そういった技術の継承が必要です。ここでは部内</p>

	<p>の研修とさせていただいておりますが、例えば上下水の中でも土木、機械、電気といった部分は、例えば他部署にもいますので、そういう部から来ていただくそういう横の繋がりはございます。</p> <p>最後にいただいた地域の皆さんと交流、協働は非常に大事と考えます。</p> <p>やはり水道料金の値上げの説明会の時だったり、今回の公募で応募された委員の皆様からのご意見をいただいたりがそういう協働の一つと考えます。昨年行った水フェスタで、参加いただいた市民の方にPRを行い、交流、協働を行っていくことも必要と考えます。</p>
議長	<p>非常に大事なことですが、この審議会が始まったころに、和歌山の水道の事故が、その記憶に薄れしており、昨年では能登半島地震もあり、今回埼玉の件もあった。これは他人ごとではないと考える必要がある。実際、料金の値上げとなると他人事になる。こういう機会に、広報を行い、先ほど説明があった様に、適切に維持管理していくかないと、困った事態が起きてしまうということを理解していただく必要がある。市内の研修でいうと、土木職ですが、高砂市でも実際工事担当される方が少ないようでは厳しい。こういう耐震化、更新をどんどん進めていかないといけないという中で、担当できる工事数は限られてきます。人口減少の中で難しいかと思うんですけど、早急に耐震化を進めていく上では、研修を行い、工事を進めていくということが大事だと思います。</p>
委員	<p>施設の関係ですけども、資料の17、18、19、20ページの辺りですが、17ページで類似団体も黒字になっている。18、19ページとも率が悪いんですね。ということは、あまり整備をしてないから黒字であったという気もしました。20ページを見ると、令和元年からの急に下がってますね。その説明をお願いしたい。</p>
上下水道部	<p>まず17ページ、18ページですが、高砂市はコンパクトな集約された市です。管の整備をしても、非常に効率的にできます。</p> <p>例えば他の市で面積がある市町であれば、長い距離の管を整備していく必要がある。高砂は非常に効率よくできていた。そのこともあり、よその市よりも料金は安かったが、それで経営が成り立ってきておりましたが、経常収支比率は、今の収益でどれだけの量が貯まるか。また、経費回収率は、今の下水道使用料でどれだけ汚水の処理ができているかといったことにつきましては、類似団体よりも高砂市は、いい状況にあるというのを示しています。</p> <p>19ページの管渠老朽化率、これは類似団体と比べて高いですが、この要因は、高砂町が市へ合併する前から、下水の処理の計画があり、高砂町の下水道は合流式になっており、汚水と雨水と一緒に集めて処理をしています。</p> <p>高砂町には昭和29年から計画がなされ、昭和40年にはもう処理場ができておりました。そんな中で、他の部分より老朽化率が高くなっています。下水の20ページ、管渠改善率が0ではないかというところですが、高砂市は平成27年ぐらいに市街化区域の下水道整備を概成しております。</p>

	<p>そこから現在まで高砂市では浸水対策に力を入れてきましたので、老朽化した管渠の改善が出来なかった。ただし、1980年ぐらいから整備が進めてきておりますので、次の段階では、しっかりとこの辺りの老朽化対策、耐震化対策を行っていかなければいけない、また水道と同じような状況とならないよう、そこは今後十分考えていきます。</p>
委 員	<p>水道の時も同じで、治水に力を入れてきたため、老朽化対策が出来ていなかつたということですかね。</p>
上下水道部	<p>改善率が低いが他の部分は下水管渠の耐用年数は50年ありますのでそこで更新を行う必要がなく、投資を行っておりませんので0となっております。</p>
委 員	<p>その部分の老朽化率は高いんですよね。</p>
上下水道部	<p>老朽化率は高砂町のところで、古い管が多くなっています。</p>
	<p>類似団体は、平成に入ってから下水整備を開始しておりますが、高砂市の場合は、高砂町がかなり早い段階で下水道工事を進めておりましたので、その部分で老朽化率を上げております。</p>
	<p>高砂町の合流管の老朽化対策は管更正で対応しておりますので、一定の改善は行っており、新しい管については、この1980年であれば、耐用年数は50年であり、それを考慮すれば1930年までは管渠には手を入れる必要がありません。</p>
	<p>ただし、令和12年まで後5年6年すれば、そこが50年を経過してきますので、それを見据えて、今後、次の経営戦略の見直しで、そこをどうしていくのかを投資目標に入れていくのか検討する必要があります。</p>
議 長	<p>下水道13ページで、現状を把握、分析し目標設定してギャップをどう解消するかというところの議論を行い、下水道8ページでは、下水道施設の耐震診断はほとんど未実施であるということで、耐震診断の結果、どれくらいお金がかかるかとかは、今後出てくるというところでしょうか。</p>
上下水道部	<p>耐震診断自体を詳細にしたものではなく、阪神大震災の後、下水道事業は国から耐震化指針が示されて、平成9年から、整理された後に建設された施設というのは、法に基づいて耐震化されております。設計段階から耐震化を備えた建物であります。その前に建てられた施設については診断すると実は耐震化の条件を満たすところもあるかと思います。</p>
	<p>ただし、今後、施設についてはやはり耐震化について詳細調査すべきだと思いますので、その旧設備は調査をして、耐震化率が満たされてないものがあるのかによって、計画を変更する必要があるかと思います。まずは調査を行いたい。</p>
議 長	<p>例えばポンプ場全部改修の必要性を検討し、建て替える必要があるかで状況は</p>

	変わってくると思いますので、調査データがないと、議論ができないと思います。
上下水道部	施設すべてをすぐにはできない。やはり急所施設と思われるところからまずは行いたい。
議長	その他、よろしいでしょうか。
委員	高砂市の下水道普及率はどれくらいですか。
上下水道部	大体 96% ぐらいです。
議長	<p>(2) 工業用水道事業経営戦略の改定について</p> <p>協議事項（2）について事務局から説明をお願いいたします。</p>
上下水道部	<（2）工業用水道事業経営戦略改定についてについて説明>
議長	事務局から説明がありました内容について、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。
委員	<p>工業用水道は 2 社だけに限定してるのは、歴史的な高砂市の誘致の関係もあってだと思うんですが、それはしかたないと思いますが、やはり 100 年も続いておりますと、他のたくさんの企業もありますので、2 社だけの送水なのかいうのは当然出てくるんじゃないかと思います。今の関連で公平性から見れば、第三者から見るとおかしいと考えるのが普通だと思います。</p> <p>しかし、これは工業用水道 100 年続いている中で見直すという話になってくるとまた難しいかもしませんけど、改善をする必要があると思います。将来も見据えながら、下水道と同じようなことで考えてしっかりと整備をしていく必要もあると思いますね。</p>
上下水道部	大正時代からこの事業が始まっています。当時締結した契約書に基づいて、今こういう事業を継続しているというところであります。昭和 40 年代には料金制も検討されましたが、なかなか抜本的な改革を難しかった。ただし工業用水道事業に関しても、将来の更新なんかについても考えていかなければいけない時期にきておりますので、やはりそういう、将来に向けて持続可能な事業にするべく、この機会に受水企業 2 社と十分協議し、お互い合意をした上で、新しい会計制度を考えていきたいと思います。
議長	やはり、100 年も継続して行っていますので、なかなかいろいろ過去の経緯がある中で、なかなかすぐには進まないという部分もあるでしょうが、前に進めようとしている。

	確認ですが経営戦略を令和8年度に見直しを行わないといけないんですけども、先が見えないのでとりあえず現行の経営戦略を令和8年度に見直すが、令和9年度以降で、2社との新たな合意に基づいた変更をするということでよろしいか。
上下水道部	受水企業さんと令和9年度に現行の協定が切れるまでに新たな制度で合意をもって新たな戦略に改定したいと考えます。
議長	その他何かありますでしょうか。
委員	新しい制度ですが、料金化、民営化とありますが、これは受水企業さんにもう自分でやっていただくという意味なのかそれとも何か新しい会社を作つてやるというのをどちらで考えておりますか。
上下水道部	民営化についてはいろんな方法があります。例えばその2社が一緒に新しい会社を作つてやる民営化もあれば、個々に資産を分けて行う方法もある。ただ、それに関して言いますと、協議を始めてるところなんで、企業さんにとってどちらが良いという結論はでておりません。また工業用水道事業自体を別の会社でやるというようなことも視野に入れることもあります。
委員	工業用水道事業の水質ってどんなものになりますか。
上下水道部	高砂市は加古川の原水をそのままの水質で送っています。
上下水道部	過去の契約の中で、現在負担金制度となっておりますが、特別負担金を見直していく中で運営方法を検討していこうという話になっています。支払いの方法を含めて協議している。経営戦略の見直しを行いますが、今の負担金制度の支払い方法で、十年間の経営戦略を作成させていただいて、令和9年度、次の制度がしっかりと確定した段階で、新たな経営戦略を策定し、差し替えをさせていただくことを考えております。
	(3) その他
議長	協議事項（3）について事務局から説明をお願いいたします。
事務局	<（3）その他についてについて説明> 次回の審議会の開催予定日について説明
議長	これで本日の協議は全て終了しました。
	4 閉会